

令和5年度「尾道版『学びの変革』推進事業」に係る
研究推進実施計画書

尾道市立浦崎中学校 校長 内海 智子

1 学校経営構想 (別紙)

学校経営目標

感性豊かに、しなやかに、たくましく生き抜く人間の育成

スクールミッション

「オール浦崎」で取り組む キャリア教育の充実による
主体的な学びの実現

目指す児童生徒像

自主 課題を見つけ、自ら学び、解決していく生徒
自立 たくましく進路を切り拓く生徒
共生 仲間とともに伸びる生徒
創造 感性豊かで、創造的な生徒

2 教育研究構想 (別紙)

3 研究の概要

(1) 研究主題・副題

主体的な学びを促す授業の創造
～課題を見つけ、自ら学び、解決する生徒の育成を目指して～

(2) 研究主題の設定理由

本校は、「一人1研究授業」や全体総合(未来貢献プロジェクト)の充実に取り組んでいる。一人1研究授業では、①単元やそれぞれの授業における「つきたい力」を明確にした指導(ゴールを明確にした指導)、②「単元を貫く課題」を設定する等、生徒に見通しを持たせ興味関心を高める工夫、③浦中授業スタイル(「一人でじっくり→対話(ペアや全体)→一人で考える」)を取り入れた言語活動の充実に取り組み、論理的思考力・表現力の向上を図ってきた。また、全体総合(未来貢献プロジェクト)では、総合的な学習の時間に「漁業」「農業」「社会」の3グループに分かれ、地域貢献の在り方を探究する活動を行うことで、主体的に学ぶ力の育成に取り組んできた。

しかし、近年はコロナ禍による集団思考や発表の機会の減少のため、思考力・表現力や主体的に学ぶ力の定着と向上に課題が残った。このことは、生徒アンケート結果からも明らかである。

本年度は浦中授業スタイルを継承するとともに、一人1研究授業をリレー形式で行い、発展させる。なお、副題は本校の目指す生徒像を掲げ、ゴールイメージを明らかにしている。

(3) 研究のねらい

- 一人1研究授業等を通しての授業改善で、生徒一人ひとりの論理的思考力・表現力を育む。なお、昨年度、重点的に取り組んできた内容である「問い（単元を貫く課題や中心発問等）」を継続し一層の充実を目指す。
- 総合的な学習の時間等において、課題発見・解決学習の充実を図ることで、主体的に学ぶ力の育成をめざす。
- 課題を見つけ、自ら学び、解決する力を持つ「たくましく生き抜く」力の基盤となる「自分に対する自信（自己肯定感）」を育成するために、浦崎小学校等との児童生徒等交流を計画的に実施する。

(4) 研究仮説

- 主体的に学ぶ力の育成を目指し、①単元構成、②「問い（課題等）」の設定、③言語活動の充実、④評価の工夫の4点を意識した授業づくりを行えば、生徒の思考力・表現力が向上し、主体的に学ぶ力が向上するであろう。
- 総合的な学習の時間において、生徒が主体となった地域を題材とした課題発見・解決学習の充実を図れば、課題解決能力等が育成でき、主体的に学ぶ力が向上するであろう。
- 小中の児童生徒等による交流活動等を計画的に実施すれば、浦崎に育つ子ども達の自己肯定感が向上するであろう。

(5) 研究内容（研究の方向）

- 一人1研究授業等を通しての授業改善
 - ・論理的思考力・表現力の育成を中心に、単元構成や課題設定等、以下の①～④を重点として研究を深めることで論理的思考力・表現力を高め、「課題を見つけ、自ら学び、解決していく生徒（自主）＝主体的に学ぶ力」の育成を目指す。
 - ・園小中で研究での取組の視点を①～④にそろえることで、より効果があるものにする。
 - ①主体的に学ぶ力を育成するための単元構成の在り方
 - ②主体的に学ぶ力を育成するための課題（「問い」）を設定する工夫
 - ③思考力・表現力の育成に向けた工夫（浦中授業スタイル（「一人でじっくり→対話（ペアや全体）→一人で考える」等）を取り入れた指導）
 - ④評価の工夫
 - めあてを達成した児童生徒の姿を明確にする。（ゴールを明確にした指導）
 - 「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の工夫、ふり返りの充実
- 総合的な学習の時間等において、課題発見・解決学習の充実
 - ・生徒自らが地域課題を見つけ、解決方法を提案する学習（全体総合：未来貢献プロジェクト）を充実させるための工夫を行う。その際、生徒が研究成果を表現する場を設定し、達成感を得られるような探究活動にする。
- 園小中の児童生徒等による交流活動を計画的に実施
 - ・園・小・中のそれぞれのステージで一貫性・継続性のある取組を進める。
 - ・小さな交流（異年齢交流、生徒会児童会交流等）を充実させる。
 - ・教員の乗り入れを実施し、小中（園）との情報交流、互いの学校文化についての理解を深め、中1ギャップの解消に努める。
 - ・園・小・中合同行事の在り方を模索し、実施する。

(6) 検証の指標

- ①生徒・教職員アンケート
- ②生徒のふり返しシートや生活記録 (Life) 等における記述的内容
- ③学力調査での通過率
- ④その他③に代わる調査の工夫

(7) 到達目標

- ①教職員、生徒の主体的な学びに関するアンケートの項目について、肯定的数値で75%以上目指す。
- ②振り返りシートなどを用いて、授業改善に生かした教職員75%以上目指す。
- ③学力調査における通過率を全国平均より2ポイント向上目指す。
- ④その他

4 指導・助言者

氏名	所属・職名等	備考
岡崎 正和	岡山大学学術研究院教育学域 教授	
中居すみ江	沼隈特別支援学校 教諭	相談支援部長
	尾道市教育委員会指導主事等	

5 研究計画

(1) 授業研究 (一人1研究授業関係)

月 日	研究内容	講師
6月15日(木)	校内研修 英語科研究授業(特別支援・知的)	中居すみ江教諭 (沼隈特別支援学校)
7月7日(金)	園小中合同研修 英語科研究授業 家庭科研究授業	岡崎正和教授(岡山大学) 尾道市教委指導主事等
8月25日(金)	学習指導案検討 ※授業公開の教科	岡崎正和教授(岡山大学)
9月26日(火)	中授業公開 数学科研究授業 保健体育科研究授業	岡崎正和教授(岡山大学) 尾道市教委指導主事
11月2日(木)	校内研修 社会科研究授業 自立科研究授業(特別支援・知的)	岡崎正和教授(岡山大学) 中居すみ江教諭 (沼隈特別支援学校)
1月29日(月)	校内研修 理科研究授業 国語科研究授業	岡崎正和教授(岡山大学) 尾道市教委指導主事等

(2) 園小中の児童生徒等による交流活動関係

月	学年以外の交流	学年ごとの交流
4	ええじゃん交流（園小）（園中）	
5		
6	小中合同運動会	中1の連携
7		
8		職場体験（園中）
9		
10	生徒会地域貢献活動（地域清掃） 音楽コン交流（園中）	
11		
12		保育実習（園・中3）
1		
2		職場見学（中1）
3		

※ 生徒会・児童会が関われる行事はできるかぎり、連携する。